



ドゥテルテ大統領（中央）と米澤栄二
オリエンタルコンサルタンツグローバル
社長（右から2人目）ら

ジープニー導入調査 で比国協会らと覚書 オリコンサルグローバル

オリエンタルコンサルタンツグローバルは10月26日、東京都港区のザ・プリンスタワー東京で、フィリピンのドゥテルテ大統領の立ち会いのもと、ピユーズ（東京都千代田区、大沼伸人社長）、フィリ

ピン電気自動車協会（フェルディナント・ラケルサントス会長）と、「フィリピン共和国マニラ首都圏における電動ジープニー導入を通じた低炭素都市推進にかかわる実現可能性調査」の共同実施にかかわる覚書を結んだ。

事業では、ディーゼルエンジンのジープニーを低炭素でクリーンな電動ジープニー（電気自動車）に更新することにより、フィリピンへの電気自動車技術の導入と事業化を目指す。

フィリピンの市民生活を支える乗合バスであるジープニーは、多くが老朽化したディーゼル車であり、修理・維持費の財政負担が増加している。マニラ首都圏など都市部では、自動車の排気ガスによる大気汚染も課題となっており、ジープニーもその要因の1つになっている。